

国語科『論理国語』シラバス

北海道常呂高等学校

学年	3	単位数	4	授業形態	一斉			
教科書 (出版社)	新 論理国語 (三省堂)		副教材等 (出版社)	新 論理国語 学習課題ノート (三省堂) 高校生必修語彙ノート 三訂版 (桐原書店) ビジュアルカラー国語便覧 改訂版 (大修館書店)				
学習目標	○実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。							
	○論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。							
	○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。							
学習方法	○(知識等の)吸収→思考→表現のサイクルを毎時間、毎単元で意識する。							
	○目の前の物事に興味を持ち、「なぜ？」と疑問を持つ。							
	○授業時間毎・単元毎の目標を理解し、そこに到達するための見通しをもつ。							
	○自分の理解度を客観的に評価し、予習や復習などを自主的に行う。							
学習評価	評価の観点		評 価 の 観 点 の 趣 旨					
	ア	知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。					
	イ	思考・判断・表現	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。					
	ウ	主体的に学習に取り組む態度	上記ア、イの力を身に付けるにあたって、粘り強く取り組み、自らの学習を調整している。(全単元この趣旨に沿って評価するため、下記「評価規準」の記載は省略)					
評価方法 観点		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		実力考査	単元考査	小テスト	発表・発言	提出物	宿題	作品制作
ア	知識・技能	○	○	○	○	○	○	○
イ	思考・判断・表現	○	○		○	○	○	○
ウ	主体的に学習に取り組む態度				○	○	○	○

学習計画（「単元」末尾の括弧内は指導領域と予定授業時数）

学期	編・章	単元	学習内容	評価の観点			評 価 規 準	評価方法
				ア	イ	ウ		
前期中間	I 部 1 論点を明確にするために	内容や構成・論理の展開を捉えて論点を明確にしよう。【読む（6）】	・ 論点を明確にする （「若者に友達プレッシャー」辻大介） ・ 内容や構成、論理を展開を捉える （「他者を理解する」鷲田清一）	○		○	・ 論証等に必要な語句を身に付けるとともに、文章の効果的な組み立てかたや情報と情報との関係について理解を深めている。 ・ 論点を明確にしながら要旨を把握するとともに、文章の内容を異なる価値観と照らしたりしながら自分の考えを広げたり深めたりしている。	②～⑥
	I 部 1 論点を明確にするために	伝えたいことを明確にして情報を収集・整理して自分の考えを伝えよう。【書く（4）】	I 部 1 「情報を整理する」	○		○	・ 論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・ 実社会等の学習の基礎に関する事柄について、様々な観点から情報を収集・整理して適切な題材を決めている。	④～⑦
	I 部 2 正しく推論するために	論点や論の展開についてその妥当性を検討しよう。【読む（7）】	・ 主張を支える根拠を捉える （「一人で爆笑」飯岡浩明） ・ 結論を導くための論拠を捉える （「世界のあり方」野矢茂樹）	○		○	・ 言葉の働きについて理解を深めるとともに、情報を整理する方法についても理解を深め使っている。 ・ 文章の種類を踏まえて複数の資料との関係を把握するとともに、その妥当性や信頼性にを吟味して内容を解釈している。	②～⑥
	I 部 2 正しく推論するために	よりの確に伝えるために文章をリフォームしよう。【書く（4）】	I 部 2 「文章をリフォームする」	○		○	・ 論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・ 文の表現や段落の構造を吟味するなど、自分の主張が明確に伝わる文章になるよう工夫している。	④～⑦
	I 部 3 事例の意味を探るために	文章中の事例の役割に注目しながら書き手の思考過程を検証しよう。【読む（7）】	・ 事例の役割と意味を捉える （「多様な視点から考える」前田健太郎） ・ 書き手の思考過程を検証する （「女性/男性だから○○」瀬地山角）	○		○	・ 文や文章の効果的な組み立ての仕方や、推論の仕方について理解を深め使っている。 ・ 文章の種類を踏まえて複数の資料との関係を把握するとともに、その妥当性や信頼性にを吟味して内容を解釈している。	②～⑥
	I 部 3 事例の意味を探るために	根拠を明確にして考えを述べよう。【書く（4）】	I 部 3 「意見を書く」	○		○	・ 論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・ 情報の妥当性などを吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	④～⑦

前期期末	I 部 4 構成を吟味し説得力を高めるために	文章や論理の構成を捉えながら内容の解釈を深めよう。【読む（7）】	・文章や論理の構成を捉える （『落語の中の経済学』大竹文雄） ・送り手の意図を捉え解釈を深める （『『展示』が伝えるもの』小田原のどか）	○	○	○	・文や文章の効果的な組み立ての仕方や、推論の仕方について理解を深め使っている。 ・関連する文章や資料を基に、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を進めている。	①、③～⑥
	I 部 4 構成を吟味し説得力を高めるために	論拠を吟味し伝えたいことを明確にしてレポートを書こう【書く（5）】	I 部 4 「レポートを書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・多面的、多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	④～⑦
	I 部 5 信頼性を吟味するために	図表や引用などを吟味しながら論理の構成を整理しよう。【読む（7）】	・情報を分析する （『情報の内容を吟味する』） ・論理の構成を理解する （『『すべり台社会』と“溜め”』）	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やすとともに、情報を整理する方法についても理解を深め使っている。 ・文章や資料の妥当性などを吟味するとともに、書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めている。	①、③～⑥
	I 部 5 信頼性を吟味するために	立場や論点を明確にして投書を書こう。【書く（3）】	I 部 5 「投書を書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・情報の妥当性などを吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。	④～⑦
	I 部 6 隠れた前提を探すために	特徴的な表現と書き手の意図との関係に注目しながら読もう。【読む（7）】	・表現の仕方と書き手の意図との関係を捉える （『地域上の『読み』』中野アキマツ） ・さまざまな観点から評価する （『誰かの靴を履いてみること』ブレイド・ミカコ）	○	○	○	・言葉の働きや推論の仕方について理解を深めるとともに、語彙を豊かにしている。 ・文章の種類を踏まえて資料との関係を把握するとともに、文章の構成や論理の展開などについて書き手の意図との関係から多面的に評価している。	①、③～⑥
	I 部 6 隠れた前提を探すために	異なる立場の読み手への意識をもってレビューを書こう。【書く（4）】	I 部 6 「レビューを書く」	○	○	○	・言葉の働きや推論の仕方について理解を深めるとともに、語彙を豊かにしている。 ・立場の異なる読み手を説得するために、批評的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫している。	④～⑦
後期中間	II 部 7 具体と抽象の関係を理解するために	具体と抽象の関係に注目しながら読もう。【読む（9）】	・文章の信頼性と妥当性を吟味し内容を解釈する （『人類による環境への影響』監訳いづみ） ・多様な論点を結びつける （『この十年をどう生きるか』聖達原京子）	○	○	○	・語彙を豊かにするとともに、主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。 ・文章と資料との関係を踏まえて内容や構成を的確に捉えるとともに、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	②～⑥
	II 部 7 具体と抽象の関係を理解するために	多面的・多角的な観点から意見を吟味し、説得力のある文章を書こう。【書く（5）】	II 部 7 「説得力のある文章を書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・自分の主張が的確に書かれているか吟味して文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自らの文章の特長や課題を捉え直したりしている。	④～⑦
	II 部 8 批評するために	事例や資料の効果について批評しながら読もう。【読む（9）】	・批判的に検討する （『言語ゲームと哲学的態度』永井均） ・書き手の立場や目的を考える （『日本マンガのブルーオーシャン戦略』中山洋雄）	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やすとともに、情報を整理する方法についても理解を深め使っている。 ・文章の構成や論理の展開などについて多面的に評価する、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	②～⑥
	II 部 8 批評するために	調べたことを順序立てて報告文を書こう。【書く（5）】	II 部 8 「報告文を書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。	④～⑦
	II 部 9 情報を関連づけ自分の解釈を形成するために	情報と情報とを関連づけながら自分の解釈を形成しよう。【読む（9）】	・必要な情報を関係づける （『学びとは何か』今井むつみ） ・内容の解釈を深める （『文系と理系の壁はあるか』最相葉月）	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やすとともに、情報を整理する方法についても理解を深め使っている。 ・文章の論点を明確にししながら要旨を把握するとともに、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	②～⑥
	II 部 9 情報を関連づけ自分の解釈を形成するために	主張が伝わるか吟味し、自己推薦文を書こう。【書く（4）】	II 部 9 「自己推薦文を書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・個々の文の表現の仕方や段落の構造を吟味するなど、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。	④～⑦
後期期末	II 部 10 解釈を広げたり深めたりするために	新たな視点等から自分の考えを捉え直し、広げたり深めたりしよう。【読む（9）】	・自分の考えを捉え直す （『未来のありか』若林幹夫） ・新たな観点から自分の考えを深める （『リスク社会論』大澤真幸）	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やすとともに、情報を整理する方法についても理解を深め使っている。 ・書き手の立場や目的を考えながら内容の解釈を深めるとともに、必要な情報を関連付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	①、③～⑥
	II 部 10 解釈を広げたり深めたりするために	これまでの学習を活かして卒業論文を書いてみよう。【書く（5）】	II 部 10 「卒業論文を書く」	○	○	○	・論証等に必要な語句の量を増やし、文章の中で使うことを通して語彙を豊かにしている。 ・多面的、多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。	④～⑦

指導領域毎の時数（家庭学習期間を除く概算）

指導領域	書くこと	読むこと	
授業時数の計	43時間	77時間	計120時間